

慈眼堂（重文）

死後に「慈眼大師」の尊称を与えられた僧天海（1536－1643）の廟である。天海は比叡山の南光坊に住み、元龜の兵火（1571年）で全山焦土と化した比叡山の復興に尽力した。徳川家康・秀忠・家光三代将軍に幕府の顧問として遇された。寛永二十年（1643）に108歳で没すると、家光（1604～1651）の命により廟堂として建立されたのがこの慈眼堂である。堂内には木造慈眼大師坐像を祀る。

慈眼堂の西側には天海が建てた桓武天皇の廟塔がある。その周囲には、後陽成天皇や、江戸幕府（1603～1867）の創始者である徳川家康（1543～1616）を神格化した東照大権現の石塔が立ち、さらに慈眼大師塔や、後水尾天皇（1596～1689）、鎌倉幕府（1185～1333）を倒した新田義貞（1301～1338）、源氏物語の作者・紫式部（978～1016）、女流歌人の和泉式部（976～1030）、女流作家・歌人の清少納言（966～1025）らの供養塔のほか、江戸時代以降の天台座主の墓が立ち並ぶ。